

平成30年度 自己評価結果公表シート

学校法人清明学園

幼保連携型認定こども園おかだまのもり

1. 本園の教育・保育目標

幼児部 ①自分でよく考えて、意欲的に行動することも ②思いやりのある優しく温かな心を持つことも ③逞しく健康な心と体を持つことも ④気持ちのいいあいさつができることも	乳児部 ①心身ともに健やかでよく遊ぶことも ②基本的生活習慣を身に付けたことも
---	---

2. 今年度の重点目標

- ◇ 子ども自らが考え選択し、試行錯誤を繰り返しながら、心から『楽しい！面白い！』などと五感を震わせながら夢中になって遊び込める環境を心掛け、子どもの内面や心（非認知能力）という本当に必要な力が、より豊かに逞しく育つよう努める。
- ◇ 子どもの育ちをより具体的に捉え、可視化して保護者に伝えながら、園の方針もしっかりと理解していただけるようにし、保護者との信頼関係を深めながら、保護者と保育教諭が手を携え、子どもの成長を共に見守り・励まし・喜び合えるよう、丁寧且つ心温まるような見守る保育に努める。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
保護者への対応 ～保育方針の保護者理解を深める～	園長だよりに限らず、クラス・学年だよりに於いても、子どもの育ちを具体的に伝える工夫や写真を多用したポートフォリオなどを掲示し、可視化を心掛けた。園見学者には、実際の見学に加えて動画を見ていただき、この環境や遊びの大切さ・育ちの保証を伝えるよう努めた。
子どもへの対応 ～子どもの心に寄り添い、成長を見守り・見取る保育の在り方～	保育教諭自身も、より楽しみながら、子どもの自主性や主体性を大事にした保育を進められるよう、子どもの意欲・気付き・創造性などを育む見守りと、環境整備を大切にしながら保育を進めた。しかし、子どもの育ちをより具体的に捉えるための、保育教諭自身の理解と実践にはまだ課題が残る。子どもの意欲が湧きたつ仕掛け作りの必要性の理解と、子ども任せに陥らない保育教諭の意識を持ち、子どもが十分に遊び込める環境設定の配慮を心掛けていきたい。
保育の質向上のため、園内研究を充実させる。	乳児部と幼児部合同の園内研究に力を入れ、乳幼一緒に考え、保育を進めていく体制ができてきている。特に、2歳が、早い段階から幼児部との交流に力を入れ、全コーナーにて幼児部の子どもたちと共に活動するようになり、より深く、子どもの捉え方・見守る姿勢の重要性・課題に気付き、話し合いを深めていけるようになってきた。
自然体験による育ちの支援	畑をお借りしての栽培・収穫活動や冒険クラブの協力を得ての自然体験活動により、楽しさの中にも、自然との繋がりや命の大切さを学べた。

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

子どもの育ちの質を保つための丁寧な保育の在り方、保育教諭の役割など、過去に囚われない考え方や目の前にいる子どもたちを主語にした見守りの保育を進めるよう努めてきた。乳児部と幼児部の繋がりを意識しての活動を取り入れたり、保育教諭同士の交換研修などを行ったことで、互いに相談したり理解が深まったりしてきている。各コーナーでも、乳児と幼児が自然に触れ合っている姿がたくさん見られ、優しく思いやる心が育つ基になったと感じる。今後もより進化・深化できるよう研修を重ね、園内・室内環境の更なる質向上を目指したい。また、保護者や地域からも、連町の行事に参加していく中で、少しずつ認めてもらえつつあるように感じている。今後も、更に信頼をより得られるよう、積極的なコミュニケーションを心掛け、【共育】の大切さを感じてもらえるよう、教職員一同が心温まるかわりを心掛けるよう努めたい。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
特別支援教育	支援の必要な乳幼児への対応のための人的環境を整え、各関係機関との連携を図り、保護者にも細かい対応を心掛ける。
乳児部・幼児部の連携	保育教諭同士の更なる相互理解や連携の充実など。

6. 関連事業

- 一時預かり事業実施
- 園開放、子育て支援事業の実施 「こぐまクラブ」～年6回 ちびっこおかだままつり 1回
- 未就園児親子教室「つばみ組」火・水・木 年間22回
- 幼小の連携～伏古北・丘珠・栄南小学校との交流